5　干害

（1）干害の様相

沿岸島嶼部地域では夏期の降水量が少なく，また土質もマサ土で干害が発生しやすい。主な干害は8月であり，電照ギクやストック等の定植時に障害を受けることが多い。

干害の発生は施肥条件で著しい差異がある。一般に窒素過多は干害を助長し，堆肥施用の多い場合は保水力が高いため被害が少ない。干害を受けた場合は病害虫や障害に弱くなって被害を受けやすくなる。これは土壌水分が少なくなると体内にアンモニア態窒素が多くなるためと，土壌中の珪酸の吸収と，吸収した珪酸の体内での移行が妨げられて茎葉の表皮細胞の珪酸が少なくなるためと考えられる。

敷わらやポリマルチは土壌蒸散を防ぎ，土壌の保水力を増して干害を防ぐことができ，その効果は高い。高温対策を考えると，できれば白黒マルチを導入したい。

（2）干害の対策

ア　秋ギク

10月咲の品種は6月上-中旬に定植，6月中-下旬に摘心，8月下旬-9月にかけて花芽分化をする。すなわち，7月下旬から8月は茎の伸長期で最も大切な時である。この期間に干害を受ければ茎の伸長が劣り品質が悪くなる。キクは乾燥に強いので，マルチをすればほとんど枯死することはない。問題は干害後の管理で，残存肥料が降雨後に急激な肥効を示し，花芽分化が遅れたり，節間や葉の不揃いなものになってしまう。干害中は施肥を控え，ハダニ，アブラムシ，ヨトウムシ等の防除を行い，マルチをしていない圃場では中耕や土寄せを行う。夕方の畦間潅水や早朝のホース潅水を行なうことは効果的である。

イ　寒ギク

7月上旬に定植するので，通常は幼苗で干害を受けることになる。黒ポリマルチでは，照り返しで，一層干害を受けるし，地表温が高くなって根の伸びが悪い。対策としては敷わらを多くして土の乾燥と地温の上昇を防ぎ，根張りの少ない時は株元潅水を行う。